

令和2年度「生徒による授業評価」報告

1. 目的

教員の授業に対する生徒の評価を調査・分析することにより、生徒の視点に立った授業改善と教員の指導力の向上に資するとともに、生徒と教員の信頼関係をより一層深め、生徒が主体的に授業に関わろうとする姿勢を育てる。

2. 調査期間

(第1回) 令和2年7月1日(水)～7月17日(金)

(第2回) 令和2年12月1日(火)～12月23日(水)

3. 調査方法

生徒全員対象の記名アンケート形式とする。

4. アンケートの実施内容：

次の8つの項目について、「かなり当てはまる」、「ほぼ当てはまる」、「あまり当てはまらない」、「ほとんど当てはまらない」の4段階の評価を行う。

1	毎時間の授業や単元(内容のまとめ)のはじめに学習のねらいを示したり、毎時間の授業や単元の学習のあとに学習したことを振り返ったりする機会がある
2	単元(内容のまとめ)の学習の中で、他者の考えを知り、自らの考えを広げ深める機会がある。
3	単元(内容のまとめ)の学習の中で、課題について自分の考えをまとめたり、解決方法について考える場面がある
4	授業の中で身に付いたことや、できるようになったことを実感することができた
5	他者の考えを知ることにより、新たな考え方を知るなど、自らの考えを広げ深めることができた
6	授業で得た知識をもとに、自分の考えをまとめたり、課題の解決方法を考えたりすることができた
7	授業で学んだことをそれまでに学んだことと関連付けて理解することができた
8	教師から学校評価について説明がされている。

5. アンケート結果・分析

第1回(7月)に引き続き、第2回(12月)でも8つの項目の全てにおいて「かなりあてはまる」「ほぼあてはまる」の合計が84%を超え、年間を通して高い授業評価を得ることができた。これは、「主体的・対話的で深い学び」を実現するための授業改善にむけて、前年度までの経験を踏まえ、学校全体で高い意識をもって取り組んできた成果が表れたものであると考える。

特に本年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大により前期の授業計画の大幅な変更が余儀なくされた中、生徒の授業機会を確保するため、各教職員が独創的な発想をもってオンライン授業等を積極的に展開した。このような状況下ありながらも、第1回(7月)で高い授業評価を得られたことは、これまで

での授業改善にむけての取組が十分に生かされたものであったと考える。今回の経験は、今後の授業改善にむけて新たな可能性を見出すものとなった。

全体的に、第1回（7月）より第2回（12月）の授業評価のほうが高い結果となった。これは、後期は対面授業が通常通りに行えたことも大きく影響していると考えられるが、オンライン授業から対面授業への切り替えをスムーズに行うことができ、さらに生徒の授業への興味・関心を継続させることができたことの表れでもありと考えられる。

本年度の授業評価の結果は、過去の結果を比較しても高いものとなった。このコロナ禍の状況にあり、例年以上に生徒の授業への意識が高かったとも言えよう。今回の結果を振り返り、さらなる授業改善にむけて、各教科・科目が横断して、日々の授業の中で「主体的・対話的で深い学び」を実現していきたい。

